

令和7年度第7回 感染症発生動向調査協議会

令和7年10月15日

月番：澤田 明

1 前月の感染症発生動向について（2025年第36週～39週・9月）

＜全数把握対象疾患＞

- 一類感染症の報告はなかった。
- 結核は22例あり、毎週コンスタントに報告された（前年比：99.6%，前々年比：122.7%）。
- 細菌性赤痢は2例報告された。
腸管出血性大腸菌感染症は、12例（0157：6例、その他：4例、不明：2例）報告された（前年比：62.1%，前々年比：156.5%）。
- 四類感染症の報告は、E型肝炎1例、レジオネラ症3例（前年比：222.7%，前々年比：108.9%）であった。
- 五類感染症
 - ✓ アメーバ赤痢2例、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症1例、百日咳89例（前年比：17640.0%，前々年比：4200.0%）の報告があった。
 - ✓ 梅毒は11例報告された（前年比：142.9%，前々年比：151.5%）

＜定点把握対象疾患＞

- 前月と比較し増加傾向にある疾患
 - ✓ インフルエンザ（前月比：207.7%，前年同期比：46.2%）39週で増加
 - ✓ RSウイルス感染症（前月比：179.2%，前年同期比：196.3%，前々年比：564.4%）報告数は少
- 前月と比較し減少傾向にある疾患
 - ✓ 新型コロナウイルス感染症（前月比：88.4%，前年同期比：141.9%）
 - ✓ 伝染性紅斑（前月比：74.7%，前々年比：6141.3%）
 - ✓ ヘルパンギーナ（前月比：91.4%，前年同期比：495.9%，前々年比：241.6%）
- 前月と比較し横ばいにある疾患
 - ✓ 急性呼吸器感染症（前月比：103.2%）

2 検討すべき課題

特にありません。

3 情報提供すべき事項

特にありません。

4 情報提供（月番委員専門分野から）

特にありません。

<検討結果>